2024月3月

# 【Mother‘s Tree Japan Quarterly Report No.12】

皆さん、こんにちは！　春はもうすぐ、お元気でお過ごしのことと存じます。特記すべき意義深いイベントとして（詳細は後記参照）、まず初めに、２月１１日（日）に「品川区きゅりあん」で開催した『官学・市民で考える多文化共生シンポジウム』です。会場満員の参加者約９０名は、登壇者の素晴らしい実践的活動のお話に感銘を受け、終了後はお互いの名刺交換や意見交換に賑わいました。次は、３月３日（日）の池袋の「イケビズ」での『多文化共生子育てフェスティバル』には、なんと２６０名が参加され、多彩な出店とパフォーマンスに親子共々くつろぎの一日を過ごされました。今一つは同日昼休みに、西口円形公園で、アルゼンチンタンゴのFlash Mob(街頭ダンス)を豊島区の後援で開催、アルゼンチン大使も駆けつけられ、多文化共生の一環として、大勢のダンス愛好者と区民が楽しみました。この3件の対面での大きなイベントの成功は、マザーズの新しい事業領域の１ページを飾るものであり、今後共こうした楽しく意義深いイベントを皆さんのご協力で開催していきたいと望みます。

理事長坪野谷雅之

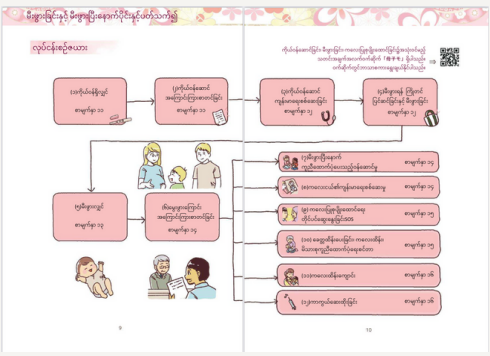
## 直近の具体的活動状況（11月～3月実績）

### 1.2023年度通常事業無事に終了

おかげさまで、3月31日をもちまして、2023年度の通常事業を無事に終了することができました。保健所や病院・保育園、ご本人からの希望で**寄り添いサポート274人、相談61件、LINE相談686件、オンライン母親相談会341人、母親サロン215人、日本語サロン173人、総計1750人**のママたちが利用し、母国語でのサポートや助産師からのアドバイス、情報交換を行い、多くの「無事に産まれたよ！」の報告をいただきました。出会えた全てのママたち、サポートに当たってくれたスタッフ、ご協力いただいた自治体や他団体のご担当者、そしてこの活動を支えてくださった全ての皆さんに感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

### 2.豊島区と協働で「外国人住民のための子育てガイドブック作成」（8言語）の完成

外国人ママの声を聞いて必要な情報を厳選した「外国人住民のための子育てガイドブック」が完成し、無事に納品することができました。アンケート集計・懇談会での情報収集から始まり、情報を選定してやさしい日本語で作成→多言語化→レイアウト→言語によって長さが全く違う中での気の遠くなるような作業を、日本人スタッフ・外国人スタッフが一丸となって頑張りました。区からの要望のあった6言語に加え、これから増加が見込まれるベンガル語・インドネシア語も加えての8言語２８ページでの完成となりました。出来上がった時の感激はひとしおでした。



これからたくさんの人たちに活用していただき、安心して子育てを始められると思うと本当に嬉しいです。外国人メンバーからも「この作業に携われてよかった！」という声も上がりやりがいのある活動でした。

付き添い
サポート

子育てサロン

オンライン
相談会

日本語サロン

**3.助産師・援助者向けの「やさしい日本語で産前産後をサポートする講座」開催**

やさしい日本語講師の山市先生をお迎えして、産前産後をサポートするコツを学ぶ講座を開催しました。30人近いお申し込みをいただき、途中でグループに分かれてのワークショップ形式をとりながら、外国人妊産婦への声かけをみんなで学びました。とてもわかりやすいと好評だったので、また機会を作ってみんなで学んでいきたいと思います。

**4.官民学市民で考えるシンポジウム盛会でした（2024年2月11日）**

多文化共生のことを官民学、それぞれから課題や取り組みを取り上げてディスカッションするシンポジウムを開催しました。品川区のきゅりあんの大会議室がいっぱいになるほどたくさんの方が参加してくださいました。共催の「IG科研」の細谷先生の総合司会、「東京パブリック弁護士事務所」の谷口弁護士のファシリテーションのもとで、人権・雇用・行政・共に生きる市民の視点、援助者の視点でそれぞれの登壇者の熱い思いが語られ、アンケートでも高い評価と前向きな感想をたくさんいただきました。終了後も会場の使えるギリギリまでディスカッションがあちこちで繰り広げられていました。

**5.多文化共生子育てフェスティバル第一回大盛況でした（2024年3月3日）**

日本人には様々な子育てを知ってもらい、外国人ママたちには自分たちの文化を誇りに思ってもらいたい、設立当初から夢見ていた、多文化共生子育てフェスティバルが開催されました。それぞれの国の子育て文化を紹介するブース、立教大学や地元企業である良品計画、豊島区、世界の絵本などの様々なブースに加え、タイのヨガ、ネパールのベビーマッサージ、世界の手遊びを紹介するイベント、そして東京芸術大学の宮本先生とのコラボレーション企画で、在日ミャンマーのママたちの気持ちを詩のアートにした「母たちの森をゆく」も、全てが大盛況となり、予想を遥かに上回る２６０名を超える日本人・外国人家族や関係者が来てくれて、大変賑やかで楽しく有意義な1日になりました。

## 第一回多文化共生
## 子育てフェスティバル

新しい命を真ん中にした多文化共生のと言う私たちの方向性に光が見え、大きな手応えを感じたフェスティバルでした。「また来年もやってほしい！」という声をたくさんいただきましたので、ぜひ来年度も実現できたらと思っています。ご協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

### 6．オンラインシンポジウム「フィンランド✕かながわの事例から」開催

フィンランド在住の移民の福祉を研究されている下村様と、かながわ国際交流財団の福田様をお招きしてのオンラインシンポジウムを開催しました。当日参加とアーカイブ視聴ができるように設定しての開催でしたが、両方合わせて８０名を超える方々に届けることができました。かながわ国際交流財団の取り組みのご紹介の中では外国人ママたちのとまどいをビデオで追体験できるようにご紹介くださるなど、わかりやすい説明に多くの皆さんが共感されていました。日本と同じく超少子高齢化を迎えるフィンランドの事例の中では、難民申請中であっても人権を尊重しフィンランド語教育や暮らしのガイダンスを、お金を支給して受けてもらい、「良き納税者になってもらう」と言うフィンランドの一貫した姿勢に感嘆の声が聞かれました。人口数や税率、人権意識が日本とあまりにかけ離れていて羨ましいと思う反面、一周回先に進んでいるゆえの悩みなども共有していただき、意義深いシンポジウムとなりました。

### 7.外国人妊産婦に向けた日本での出産の疑問・不安に寄り添う動画制作⑥シリーズの完成

外国人ママたちからよくある疑問・質問に答えるための多言語動画を作成し、6言語字幕付きでリリースすることができました。日本でのお産の基礎知識だけでなく、困った時どう検索したらいいのか、行政のどこに相談できるのかなども盛り込んだ、現実に即した動画です。また、行政の方から見て外国人ママたちがどこに躓きを感じやすいかがわかりやすいように構成を工夫しました。下記からご覧いただけますので、ぜひ検索ください。2024年はこちらの普及にも努めてまいります。（https://mothers-tree-japan.org動画マークからみられます）

### 8.お産情報セット291セット無償配布できました（累計421人）

「日本にはいい資料があったとしてもサイトも日本語だし、そもそも家にパソコンもプリンターもないから」そんな外国人ママのつぶやきから始まったお産情報セットの無償配布。希望者には母国語の母子手帳もつけてお産に必要な情報をプリントアウトし、**2023年度中には291人のママに、累計で421人**の母となる人たちに届けることができ、たくさんの「ありがとう！」のメッセージをいただきました。このサービスも継続したいものの一つです。

### 9.九州・京都での母親サロン開始

九州・京都メンバーが自発的に企画してくれて、母親サロン（兼用日本語教室）を開催することができました。人数は少ないながらも助産師、お産ドューラを中心に心通う温かい会となり、次年度以降も続けて行けたらいいなと思っております。メンバーの頑張りに心からの感謝です。

九州・京都での
母親サロン

【今後の活動予定】（4月～6月）
日本財団への次年度の助成金申請不採用と
新たなチャレンジ

1.豊島区からの委託事業「外国人住民のための子育てガイドブック作成」のプレスリリース
2.「としまモデル」の地方自治体への普及・情報のデータベース化と普及
3.外国人妊産婦に向けた日本での出産の疑問・不安に寄り添う動画の普及
4.指差しボード新シリーズの書籍化と普及
5.東京芸大とのコラボ企画「母たちの森をゆく」公演（11月頃）
6.理事会・総会（５月）

事務局より

**気温差の激しい2、3月でしたが皆さんお元気でしょうか。1.2.3月はイベント続きで飛ぶようにすぎて行きましたが、全てをいい形で開催することができました。そして今年度はやってみたいと思っていた事業をほぼ全て試行錯誤しながら着手することができました。皆様に改めましてお礼申し上げます。今年度だけで、この小さなNPOが延べ1750名の外国人ママたちをサポートできたことは、一人一人の情熱と力の結晶と皆様からの温かいご支援の賜物以外の何ものでもありません。心より感謝申し上げます。**

**「このまま全力でいける!」と意気込んでおりましたが、通常事業を申請していた日本財団の助成金が残念ながら通らず、次の助成金が見つかるまでは、ボランティアメンバーのご厚意に甘えてオンラインの活動をメインに少しペースダウンして活動していくことになります。**

**NPOの運営はご寄付・助成金・委託のバランスをとることが大切と言われますが、私たちも次年度は創意工夫しながら安定した運営をしていけるように頑張って参りたいと思っております。５年目を迎える今が正念場、どうぞみなさま引き続き温かい応援やアドバイス、見守りをよろしくお願い申し上げます。どうかご自愛なさって素敵な春をお過ごしくださいませ。**